

| | |
|------|--------------|
| 番号 | 学校名 |
| 30-3 | 千葉県立館山総合高等学校 |

令和元年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第2年次）（概要）

| | |
|------------------|---|
| 1 研究開発課題名 | 教科「家庭」の学びをコミュニティ再生に生かす地域共創人材育成プログラムの開発～地域の生活を支え、地域の賑わいを創り出す「まちカフェ」プロジェクトへの挑戦～ |
| 2 研究の概要 | <p>地域や社会の課題を見だし、その解決に向けて、生涯にわたり家庭科の専門的な学びをコミュニティ再生に生かす地域共創人材を育成するため、次のような取組を行う。</p> <p>①コミュニティの再生・活性化及び生活の質の向上を目的とした「まちカフェ」に挑戦する。「まちカフェ」の運営にあたっては、「減災活動」、「交流」、「食のまちPR活動」、「地域の魅力発信」の4つのフィールドを取り上げ、館山市を中心に、NPO団体や社会福祉法人等各機関と連携し、次代の郷土をつくる人材の育成や学校を核としたまちづくりを一体的に進めていく。</p> <p>②協働型・双方向型や課題解決型学習を柱とした教育プログラムの開発を行う。その際、大学等の協力を得て、学習過程に地域での実践の場「まちカフェ」運営を位置付けたり、学年縦断型の学び合いを取り入れたりすることにより、知識のより深い理解や技能の習熟や課題解決能力、主体的に学ぶ力の育成を図る。</p> <p>（1）まちカフェの運営</p> <p>（ア）フィールド別活動</p> <p>講座を開催するまちカフェを実施するために課題研究で調査研究改善を実施する</p> <p>① 減災活動</p> <p>② 交流</p> <p>③ 食のまちPR活動</p> <p>④ 地域の魅力発信</p> <p>（イ）地域で開催されるイベントに参加、または学校主体のまちカフェを実施する</p> <p>（2）授業改善</p> <p>（ア）協働型・双方向型学習</p> <p>協働型・双方向型学習を取り入れ、生徒が思考を広げ深めていく学びを学習過程に位置付ける。クラス単位、科目選択者の10人前後、課題研究グループの5人前後と様々な規模で学年を越えた生徒同士の話し合いや教え合い、様々な人との協働、双方向のやり取りを実施し、3学年での到達点を1学年からイメージさせる学び合いの機会をつくる。これにより知識の理解や技能の習熟、主体的に学ぶ力、コーチング力、課題発見・解決力の育成を図る。</p> <p>更にポスターセッションでは、まちカフェ運営の研究まとめとしてポスターを作成し、割り当てられたスペースにて近くにいる来場者にその内容を説明し質問に答える。これによりプレゼンテーション力、状況判断力、コミュニケーション力等を育む。</p> <p>また、課題研究発表会・成果発表会においても同様に様々な資質の向上をめざし、自己肯定感を育む機会とする。</p> |

(イ) 自己評価力を高める学習～学びの足跡～

家庭科の専門科目、単元ごとに「学びの足跡」ワークシートを活用し、自己評価力を高め、生徒の資質向上を自覚する取組みを実施する。また各々の変容をたどる。

まちカフェ実施後にも「学びの足跡」ワークシートで振り返りをさせ、各々の資質における課題発見・解決につなげる。

(3) 知識・技術を高める講座・研修

様々な講師による専門性の高い講座や研修を受講し、視野を広げ、主体的に学び知識・技術を向上させる。どのような内容や工夫が知識・技術を高めるために効果的か考察する。

(4) 評価方法の開発

(ア) ルーブリック等の絶対評価による判断基準表を作成

(イ) 生徒の資質・能力をはかるアンケートを実施

3 令和元年度実施規模

家政科を中心とし研究実践を行い、一部の活動においては工業科・海洋科とも協働して実施した。

4 研究内容

○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）

| | |
|------|---|
| 第1年次 | <ul style="list-style-type: none">・協働型・双方向型学習を取り入れた主体的に学ぶ力の育成・地域での実践の場を学習過程に位置付けた効果的な課題解決型学習の実施・「まちカフェ」の取り組み・評価方法の開発 |
| 第2年次 | <p>1年目の事業を継続し、それに加えて 研究開発を深化させ、以下の内容を重点的に開発していく。更に、生徒を積極的に地域での活動に参加するように促し、講座を開いたり発表したりする機会を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none">・ボランティア活動を学校設定教科・科目とし、出張カフェ等の参加をはじめ各種社会貢献活動を学習として位置付ける。・持続可能なまちカフェの構想・地域の関係者と共に地域活性を意識した講座やイベントの開催・ICT活用、WEB情報発信 |
| 第3年次 | <p>1年目・2年目の事業を継続し、それに加えて 生徒が自主的に地域課題を見だし、解決の糸口を見つけられるセンスを育む。急激な社会の変化に柔軟に対応し、様々な人々と共に支え合う生活産業を担う専門的職業人の人材育成を目指し、研究成果を県内外の家政科高校へ広める。</p> <ul style="list-style-type: none">・商店街の空き店舗等を地域の関係者と共に活用したまちカフェを開設・運営して見いだした課題を解決・改善する実践を行い、まちカフェ運営を充実させる。・同様の課題を抱えている他地域の高校との交流 |

○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）

該当なし

○令和元年度の教育課程の内容（令和元年度教育課程表を含めること）

家政科の教育課程表を別紙添付する。（別紙1）

○具体的な研究事項・活動内容

（1）まちカフェの運営

（ア）フィールド別活動内容

- ① 減災活動
- ② 交流
- ③ 食のまちPR活動
- ④ 地域の魅力発信

（イ）実施したまちカフェや参加したイベント

- ① 城山ふるさとまつり

| 講座・コーナー | 内 容 |
|---------|--|
| パウンドケーキ | 館総伝統パウンドケーキとオリジナルパウンドケーキの販売 |
| B B Q | 南房総バーベキュー協会と共にB B Qイノシシ肉の無料提供 |
| 減災活動 | 手作りした巾着袋の中に、防災用品とお菓子を詰め、子ども用防災巾着にするワークショップ 館総防災マニュアルの無料配布 |

- ② 里まちM e e t U p

減災活動，パウンドケーキ募金活動，地域活性に取り組む人や団体との交流

- ③ 北条海岸 BEACH マーケット

| 講座・コーナー | 内 容 |
|---------|--|
| パウンドケーキ | 館総伝統パウンドケーキと夏みかんパウンドケーキの販売 |
| B B Q | 南房総バーベキュー協会と共にソースを開発し，B B Qイノシシ肉に添えて販売 |
| 減災活動 | 手作りした巾着袋の中に、防災用品とお菓子を詰め、子ども用防災巾着にするワークショップ 館総防災マニュアルの無料配布 |

- ④ 館総防災スタンプラリー（校内カフェ）

| 講座・コーナー | 内 容 |
|----------|---|
| パッククッキング | ポリ袋に食材を入れて湯せんで火を通す調理法を用いて炊き込みご飯作りを体験・提供 |
| 防災クイズ | クイズ形式で防災意識を高める |
| 防災ダンス | 避難時の対応の言葉を入れた替えうたをみんなで歌って踊る |
| 新聞スリッパ | 新聞スリッパのつくり方を紹介，作成ワークショップ |
| 防災パーク | 大声大会，防災借り物競争，防災ストレッチなどを体験 段ボール間仕切りを作り一人分の避難スペースを展示 |
| 休憩コーナー | ハーブティーの提供 |

- ⑤ 駅舎100周年記念イベント

「房総の恵みぎゅっとピタ」の販売

- ⑥ 館総祭

S P H活動の展示

- ⑦ まちカフェ around 館山駅東口

| 講座・コーナー | 内 容 |
|---------|---|
| 商品開発 | 地域の和菓子店と協働開発したピーナツパイの販売 |
| 減災活動 | 福島研修や被災地支援活動を行ったことの発表 新聞スリッパ作成講座 防災ストレッチ講座 被災地応援メッセージボード アロママッサージ |
| 館山検定 | 商業科授業プログラミングによるクイズ形式の館山検定 |
| かまどベンチ | 工業科による作成したかまどベンチの紹介 |
| ハーブコーナー | 休憩スペースにてハーブティーの提供 ハーブ石鹸作り体験 |
| 木の実で工作 | 幼児対象の松ぼっくりやどんぐりを使った簡単工作体験 |
| 福島交流 | 福島の郷土料理をアレンジした調理品の販売 |
| 食のまちPR | 「房総の恵みぎゅっとピタ」の販売 |

- ⑧ 館総クッキング教室
スイートポテト、おからマフィン料理作りと木の実を使った工作を幼児対象に実施。
- ⑨ 定時制食堂
定時制生徒対象に洋食献立を提供

(2) 授業実践

(ア) 協働型・双方向型学習を取り入れた主体的に学ぶ力の育成

- ① ポスターセッション
- ② 課題研究発表会・成果発表会
- ③ 2・3年「調理」 鱈の三枚おろし
- ④ 家庭科技術検定食物調理4級実技の補習を上級生が支援
- ⑤ 海洋科とかつおの食べるラー油缶詰作り
- ⑥ 工業科とかまどベンチ作成
- ⑦ DIG (避難想定ゲーム)

(イ) 自己評価力を高める学習～学びの足跡～

昨年に引き続き学びの足跡ワークシートを用いて、PDCAサイクルと、身についた資質を認識する振り返り学習を行った。数学や家庭基礎を学ぶ他学科生徒に対しても実施した。

(3) 知識・技術を高める講座・研修

- (ア) 福島交流学習
- (イ) 宮城県防災ジュニアリーダー育成合宿
- (ウ) 県内校外学習
- (エ) 産業教育フェア新潟大会 SPH事業発表会参観
- (オ) 千葉敬愛短期大学教授による手袋人形制作と実演講座
- (カ) 千葉敬愛短期大学教授による音楽表現講座
- (キ) ものづくりマイスタージャケット製作実習
- (ク) ものづくりマイスター和菓子講習会
- (ケ)

(4) 評価方法の開発

- (ア) ルーブリック等の絶対評価による判断基準表を作成

(イ) 生徒の資質・能力をはかるアンケートを実施

5 研究の成果と課題

○研究成果の普及方法

- 学校ホームページにS P H関連の授業内容を掲載
- 安房地域の日刊紙である房日新聞にS P H関連記事の掲載を依頼，地域住民に情報を提供
- 各都道府県・指定都市教育委員会の家庭担当指導主事を対象に高等学校産業教育関係教育課程研究協議会にて事例発表を実施
- 全国高等学校長協会家庭部会主催指導者養成研修にて「地域と共に支え合う生活産業人育成に向けた取組み」と題して家庭科教員対象に事例発表を実施

○実践による効果とその評価

(1) まちカフェの運営

講座を開催するための計画力，主体性，講座の宣伝や内容をわかりやすく伝える情報発信力，来場者とのやり取りの中で臨機応変に行動できる柔軟性，公の場での適切な行動ができる規律性，感情に左右されないストレスコントロール力を評価した。

結果は計画力 81.0%(60.6% カッコ内は昨年値以下同様)，情報発信力 72.4%(61.2%)，柔軟性 74.1%(61.2%)，規律性 80.6%(64.8%)，ストレスコントロール力 69.8%(66.7%)であった。全体的に昨年度の数値より上昇した。まちカフェを数回実施して自信がついたと判断する。

(2) 授業実践

(ア) 協働型・双方向型学習を取り入れた主体的に学ぶ力の育成

ポスターセッション，課題研究発表会，成果発表会において，自主的に課題に取り組み，調査や情報をもとに分析したものを発表し，質疑に対して的確な応答をし，課題発見したかを重点評価したところ自主性 76.8%，分析力 73.6%，対応力 60.8%，課題発見力 74.9%であった。この結果から，的確な応答ができないまたは自信がないことがわかった。今後は研究の目的を明確にし，課題解決のために研究を深めていることを生徒に認識させる。また，他教科でも言語活動を充実させ，言語表現力を高める。

学年を越えた学び（保育実習リハーサル参観）では，参観した1・2年生の状況判断力 51.8%，課題発見力 53.0%，課題発見力，自主性 59.5%となった。すべてにおいて2年生の数値が低かった。これは，来年自分たちが演じるという現実を受け止め，厳しい自己評価をした結果と判断する。今後は成功体験を積み自信をつけさせる取り組みを行う。

(イ) 自己評価力を高める学習～学びの足あと～

「学びの足跡」ワークシート作りを通して，自らの資質を把握する分析力や課題発見力，課題に向けて解決策を模索する探究力，わかりやすくワークシートにまとめて伝える発信力について評価した。結果は分析力・課題発見力 74.3%(61.8% カッコ内は昨年値以下同様)，探究力 63.4%(58.2%)，発信力 75.6%(61.2%)だった。発信力が大幅に上昇したのは，「学びの足跡」を書くことが習慣になり，自分の考えを記しやすくなったためと考える。ワークシートの内容が昨年と比較して充実している生徒が多い。今後も継続して取り組んでいく。

(3) 知識・技術を高める講座・研修

学んだ内容を今後どのように活かしていきたいかに着目するため，課題発見力と主体性について評価した。また講師や研修先の人との交流を取る際の規律性とコミュニケーション力も評価した。結果は課題発見力 65.8%，主体性 66.4%，規律性 70.1%，コミュニケーション力 71.9%だった。講座内容により数値は様々であり，少人数で学んだ講座はどの評価も高い傾向にあった。今後も質の高い講座や研修を企画する。

(4) 評価方法の開発

一年次に作成した生徒の資質・能力をはかる全48問に及ぶアンケートを実施した。同じ内容のものを今年度末に行い生徒の変容をみとった。3年生の資質・能力すべてが前回よりも上昇し，コ

コミュニケーション力や柔軟な対応力の数値が高かった。

○実施上の問題点と今後の課題

(1) まちカフェの運営

地域の諸団体よりイベント出店の依頼が多数あり、本校の実践が認識されつつある。家庭科技術検定合格レベルの技術指導など、本来の教育内容を保持しつつまちカフェを行っており、教員の負担が増えている。次年度は生徒会・他学科・他教科と連携を深めまちカフェを運営していく。

昨年は自主性に欠けていたが、今年度はまちカフェを展開することに自覚が芽生え主体的に行動する生徒がいた。次年度は多くの生徒が主体的に活動するように、課題や目標を設定し、どのような成果が得られ、達成感や高揚感が得られるかなどのゴール地点を想像させてから研究を進める手立てを構築する。更に異学年混合で企画運営を行い、協働型・双方向型学習を取り入れたまちカフェ運営の研究をする。

館山市では駅前のリノベーションに力を入れている。地域課題であるコミュニティ形成の構想を、市・民間団体と共有し、高校生が参加できる持続可能で無理のないまちカフェ運営の方向性を構築する。

(2) 授業実践

(ア) 協働型・双方向型学習を取り入れた主体的に学ぶ力の育成

ポスターセッションや課題研究発表会において、生徒や来場者が質問し、それに対して研究生徒が回答することを試みたが、的確な質問と回答が少なかった。次年度は思考を深め、活発なやり取りができるように言語活動（話し合い・文章を書く）を各教科で取り入れる。

他学科との協働型・双方向型学習により、他学科の専門性を融合し、今後のまちカフェ内容の可能性が広がった。次年度は今年度以上に他学科連携を取り入れ、まちカフェや学校教育活動をより良いものにしていく。

(イ) 自己評価力を高める学習～学びの足あと～

「学びの足跡」ワークシート作成を様々な単元で作成し、今までのワークシートを時系列にファイリングさせポートフォリオにした。今後これに基づき自己分析する機会を作る。

「学びの足跡」がパターン化しつつある。次年度は、構図を工夫させ、身についた力の強弱を可視化するなどの工夫をする。また完成したものを生徒同士で共有し、評価しあうグループ学習を取り入れる。

(3) 知識・技術を高める講座・研修

福島研修は大変充実したものだったが、他学科生徒の参加が少なかった。次年度は内容の魅力を周知し他学科生徒の参加を積極的に促す。

教員の意識や技量向上のための研修や先進的な取り組みの参観を積極的に導入する。

(4) 評価方法の開発

昨年度と同様の評価方法で評価を行った。次年度はすべての実践や活動に統一したアンケートを作成し、身についた資質がわかりやすいグラフ表示を作成する。

「学びの足跡」による身についた資質能力の表記が同じものばかり記入する生徒がいた。次年度はそれらの深まり具合が可視化できるワークシートを作成する。

生徒が相互に評価し合う方法や、評価から次の課題を見つけ、生徒たちが課題を共有しやすいワークシート作成を構想する。